

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 原北教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っていること。	日頃から送迎時に生徒さんの様子の報告に加えて家庭での状況の聞き取りなどおこなっている。個別支援計画更新面談時に学校での様子や家庭における家族との関わりについて情報をお伺いしている。	ご家庭で抱えている課題や保護者様の悩みについて聞き取りながら、ご家庭と事業所で連携した支援・関わりができるようにする。
2	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っていること。	職員ミーティングで事例を挙げる中で行動分析の視点も用いて生徒さんの行動の意図や要因を見立て、そこから必要な支援を検討している。	職員一人ひとりがより根拠の持った支援ができるように、ミーティングの中で事例検討を続けていく。
3	活動プログラムが固定化しないよう工夫していること。	事業所で提供しているカリキュラム学習では、生徒さんの取り組み状況や理解度に合わせて、提供する内容について定期的に職員間で検討している。	保護者様のご要望も聞き取りながら、今の本人に合った活動プログラム・カリキュラム学習を提供していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域資源を活用した活動を計画すること。	平日のみ受け入れなど事業所の活動時間帯では利用が難しい施設があることや、外出イベント先として土曜日の混雑状況を鑑みて候補から外れてしまう施設もある。	生徒さんの安全を最優先に考えながらも、日頃から地域にある資源で活動に取り込めるものがあるか、視野を広げて検討していく。
2	外部研修の機会が少ないこと。	資格取得のための研修の機会が多いが、多職種経験の職員に対するの外部研修の機会が少ない。	興味関心のある研修を職員間で共有する。内部研修として領域ごとの研修を実施するなど充実を図る。
3			